

〈特別寄稿〉

粟国島の陸上脊椎動物

当山 昌直*

On the Terrestrial Vertebrates of the Aguni-jima, Ryukyu Islands.

by Masanao TOYAMA

粟国島は、沖縄群島を構成する一つの島嶼ではあるが、琉球列島の地質構造区分からいうと久米島と同系列の石垣累帯(小西、1965)に属し、沖縄島とは異なる区分に入れられている。それに、沖縄島とは地理的にも隔った位置にある。したがって、粟国島は島の生いたちとも関連して生物地理学的観点からみても興味深い島である。しかし、粟国島の陸上脊椎動物に関する報告は皆無に等しく、高良(1962)にヘビ類について断片的に取扱われているにしかすぎない。そのようななかで行なわれた粟国島の調査は、まだ中途であって充分とはいえないが、これまでの調査によって得られた知見を報告する。

機会を与えて頂いた県立博物館外間正幸館長、聞込み調査に協力して頂いた上原英昌氏をはじめとする現地の方々と、動物の調査について教示を与えられた琉球大学生物学科池原貞雄教授に本稿をまとめるにあたって感謝の意を表する。

調査方法

両生爬虫類は、昼と夜の調査に出現したのを採集した。聞込みによる調査は、千石編(1979)に出ているカラー写真を提示して目撃したことがあるかどうか確認した。鳥類は、鳴き声と目撃によって確認し、できるだけ写真撮影をして後日専門家に種類を確かめてもらった。哺乳類は、特に食虫類とゲツ歯類はシャーマントラップを用いて捕獲した。他は、聞込み調査にたよった。

調査結果

今回の調査で確認された種類をあげる。ヘビ類については高良(1962)の資料も加えた。なお、学名の取扱いは、千石編(1979)・小林(1976)・今泉(1960)にしたがった。

両生類 AMPHIBIA

無尾目

アカガエル科

ヌマガエル *Rana limnocharis limnocharis*

WIEGMANN

白洲原; IV15, 1980。松尾原; IV16, 1980。

爬虫類 REPTILES

有鱗目

ヤモリ科

ニホンヤモリ *Gekko japonicus* (DUMÉRIL et BIBRON)

字西部落; IV14, 1980。土倉原 エーガーグシク; IV14, 1980。東野巖原 銅寺; IV15, 1980。照喜名原; IV16, 1980。

ホオグロヤモリ *Hemidactylus frenatus* DUMÉRIL et BIBRON

字西部落; IV14, 1980。字東部落; IV14, 1980。字浜部落; IV15, 1980。

トカゲ科

オキナワトカゲ *Eumececs marginatus marginatus* (HALLOWELL)

和田留地原; IV16, 1980。

ヘリグロヒメトカゲ *Ateuchosaurus pelloplenus* (HALLOWELL, 1860)

III10~12, 1973(安部琢哉氏採集)。

| | |
|---|---|
| カナヘビ科 | |
| アオカナヘビ <i>Takydromus smaragdinus</i> | <i>pensis</i> (MÜLLER) |
| B OULENGER | 字東部落; IV14, 1980。字浜部落; IV15, 1980。 |
| 土倉原; IV15, 1980。東野巖原 | ツバメ科 |
| 銅寺; IV15, 1980。照喜名原; IV16, 1980。 | ツバメ <i>Hirundo rustica gatturalis</i> SCOPOLI |
| 和多留地原; IV16, 1980。 | 粟国島全域; IV14~17, 1980。 |
| メクラヘビ科 | コウノトリ目 |
| メクラヘビ <i>Typhlina bramina</i> (DAUDIN) | サギ科 |
| ナミヘビ科 | コサギ <i>Egretta garzetta garzetta</i> (LINNÆUS) |
| リュウキュウアオヘビ <i>Opheodrys semicarinatus</i> (HALLOWELL) | 白洲原 大正池; IV15, 1980。 |
| 北屋敷; IV16, 1980。 | クロサギ <i>Egretta sacra sacra</i> (GMELIN) |
| アカマタ <i>Dinodon semicarinatus</i> (COPE) | 南港原 海岸; IV15, 1980。 |
| ガラスヒバア <i>Amphisma pryeri pryeri</i> (BOULENGER) | ハト目 |
| 鳥類 AVES | ハト科 |
| スズメ目 | キジバト <i>Streptopelia orientalis</i> * |
| ハタオリドリ科 | 字東部落; IV16, 1980。 |
| スズメ <i>Passer montanus saturatus</i> STEJ- NEGER | 哺乳類 MAMMAL |
| 部落内全域; IV14~17, 1980。 | 食虫目 |
| キセキレイ科 | トガリネズミ科 |
| キセキレイ <i>Motacilla cinerea robusta</i> (B- REHM) | リュウキュウジャコウネズミ <i>Suncus murinus riukiuanus</i> KURODA |
| 土倉原 エーガーツク; IV15, | 字東部落; IV15, 1980。土倉原 エーガーツク; IV16, 1980。 |
| メジロ科 | ゲッ歯目 |
| メジロ <i>Zosterops japonica</i> * | ネズミ科 |
| 土倉原 エーガーツク; IV15, 1980。 | クマネズミ <i>Rattus rattus</i> LINNÆUS |
| ヒヨドリ科 | 字東部落; IV15, 1980。 |
| ヒヨドリ <i>Hypsipetes amaurotis</i> * | ※は亜種まで同定することができなかった種を示す。 |
| 粟国島全域; IV14~17, 1980。 | 調査結果の検討 |
| ウグイス科 | |
| リュウキュウウグイス <i>Cettia diphone riukiuensis</i> (KURODA) | 両生類 |
| 土倉原 エーガーツク; IV15, 1980。 | 今回の調査では、沖縄島で比較的によくみられるシリケンイモリとヒメアマガエルは確認できなかった。水溜りにはヌマガエルの幼生はみられたが、ヒメアマガエルの幼生はみあたらぬ。現地の人にヒメアマガエルの幼生とシリケンイモリの写真をみて聞いたところ、いずれも粟国ではみたことがないとの返事であった。島の大部分が浸透性のある石灰岩から成りたってお |
| セッカ <i>Cisticola juncidis brunneiceps</i> (TEMMINCK & SCHLEGEL) | |
| 伊波良原; IV15, 1980。 | |
| ツグミ科 | |
| イソヒヨドリ <i>Monticola solitarius philip-</i> | |

り、両生類の生息地となるような湿地が少ないのが種類を限定しているものと考えられるが、このような地域でも生息可能なヒメアマガエルがみつかっていないのは興味深い。

沖縄島とその近隣の島々に帰化動物として分布を拡げているシロアゴガエルとウシガエルは、まだ入っていない様子である。以前、学校の池にウシガエルを放したらしいが、繁殖していないようであった。

爬虫類

樹上を生活の場としているキノボリトカゲは、生息が確認できなかった。現地の人に写真を提示して聞いても、みたことがないということであったので生息していない可能性が高い。ヘリグロヒメトカゲは、沖縄島では一般的に広葉樹林の落葉堆積物の下からよくみつかるが、粟国島では防風林内・耕作地・御嶽など注意して探したがみつからなかった。今回、本種を探集できなかったのは天候に恵まれず、気温が低かったことに起因しているものと思われる。

メクラヘビとリュウキュウアオヘビそれにアカマタは、現地の人も知ってはいたが、ガラスヒバアについてはよく知らないようであった。陸棲カメ類は生息していないらしい。

その他、今回の調査でオキナワトカゲとアオカナヘビについて興味深い知見が得られたので報告する。

粟国島からのトカゲ属 *Eumecees* についてはこれまで報告されていなかった。今回は、雄と雌のそれぞれ各一個体を得ることができた。粟国島のトカゲ属は、尾部の色彩がバーバートカゲに似て鮮やかではあるが、後鼻板を備えていないことなどにより、オキナワトカゲ群 *marginatus complex* (当山, 1977)に含まれる。しかし、尾の部位に琉球列島のトカゲ属にはみられない特異な形質を示すので検討を加えた。主要な形質の計測値を示すと、(1)頸胴長; 57.9 mm(雄)・53.2mm(雌), (2)尾部における背面正中部白線の長さ; 14.0mm・13.0mm, (3)尾部における

背面の黒線の長さ; 58.0mm・45.0mm+ α (再生部), (4)胴中央部の体鱗列数; 28列・28列であった。尾部背面正中部の白線は、普通、背面両側の黒線によって縁どられ、白線として尾部に伸びているのだが、粟国島のものは両側の黒線が尾の基部に近い所で一緒になって一本の線になっている(写真1)。筆者は、琉球列島のトカゲ属の種内変異を調査した資料も加えて検討した結果、(3)の形質に基づいて粟国島産の個体をオキナワトカゲと同定し、一地方的変異として取扱った。詳しいことは別の機会に報告する。

アオカナヘビの体色について、当山(1976)は宮古島のアオカナヘビが雌雄とも、一様な緑色を呈することを報告している。また、沖縄島のものは雄の両側が褐色で背面が緑色、雌が一様な緑色を呈することが知られている。しかし、粟国島産のものは、体色の雌雄差が不明瞭であった。写真2に示されるAからEの個体は、Eだけが雌であとは全部雄である。AとBは、両側が褐色で背面は薄い緑色である。DとEは、背面両側に白線を有さず一様な緑色をしている(Eは脱皮前であるので色が薄くなっている)。また、粟国島産の本種が交尾しているところのカラースライド写真(県立博物館知念勇学芸員撮影)をみたところ、雌雄ともCの色彩をしていた。したがって、粟国島産のアオカナヘビの体色の変異は雌雄差によるものではないものと推察される。

鳥類

シギの仲間を南東部の海岸で目撃した。また、東部の防風林近くの林で頭部と背面が明るい青色、腹部が白色になっていて、体形がキセキレイに近い鳥を目撃した。上述のいずれも種の同定はできなかったが参考のためあげておく。聞込み調査によって以下のような資料が得られた。(1)腹部が赤っぽい色をしたツバメを見ることがある。(2)アカショウビンは、4月下旬ごろになるとこの島に飛んでくる。(3)カラスはみたことがない。以上の資料から推察すると、(1)は、お

そらくリュウキュウツバメのことをさしているのかもしれない。(2)は、特徴的な形態と鳴き声を有しているので誤認をすることが少ないと思われるが、リュウキュウアカショウビンであるのか、また、どこから飛んでくるのか確認はされていない。(3)もよく知られた特徴的な鳥であるので生息していない可能性がある。しかし、現地では「ケラマカラス」と呼んでいる鳥がいるらしいが、慶良間から飛んでくるカラスのことをさしているのがはっきりしない。

哺乳類

採集された *Rattus* は、耳介は目に届くほど大きくはないが、腰部に太くて長い毛が混生していること、尾が頭胴長より長いこと、及び第一上臼歯の前列にくびれがあることなどによつてクマネズミと同定した。小形のコウモリ類について、数年前にその死体が学校に届けられしたこと、つい最近部落内の空屋の中でみつかったことなど現地の人たちが話していた。今回は、そのことを考慮していくつかの洞穴を調査したがみつけることはできなかった。しかし、島内には、石灰岩からなる鍾乳洞がたくさんあるので小形のコウモリが生息しているのはほぼ確実であろう。聞込み調査によると、大形のコウモリはみたことがないらしい。また、イタチは入っていないようである。

ま と め

粟国島の陸上脊椎動物相は、概して貧弱であるといえよう。地形も単調で、森林は乏しく、河川がほとんどみられないことに起因しているものと思われるが、それは更に、地史とも関係しているものと考えられる。爬虫類のオキナワトカゲとアオカナヘビ(特に前者)に形態的な固有性が認められたことは興味深いことであり、生物地理学上の問題を提供するものと思われる。

参考文献

- 今泉吉典, 1960. 原色日本哺乳類図鑑。保育社, 大阪, 196p.
- 小林桂助, 1976. 原色日本鳥類図鑑。増補改訂版, 保育社, 大阪, 248p.
- 小西健二, 1965. 琉球列島の構造区分。地質雑, 71 : 437—457.
- 千石正一編, 1979. 原色・両生爬虫類。家の光, 東京, 206p.
- 高良鉄夫, 1962. 琉球列島における陸棲蛇類の研究。琉大農家政工学部学術報告, 9 ; 1-202.
- 当山昌直, 1976. 宮古群島の両生爬虫類相(I)。爬虫両棲類学雑誌, 6 ; 64—74.
- , 1977. オキナワトカゲとオオシマトカゲにみられる外部形態の地理的変異。同上, 7 : 39—40.

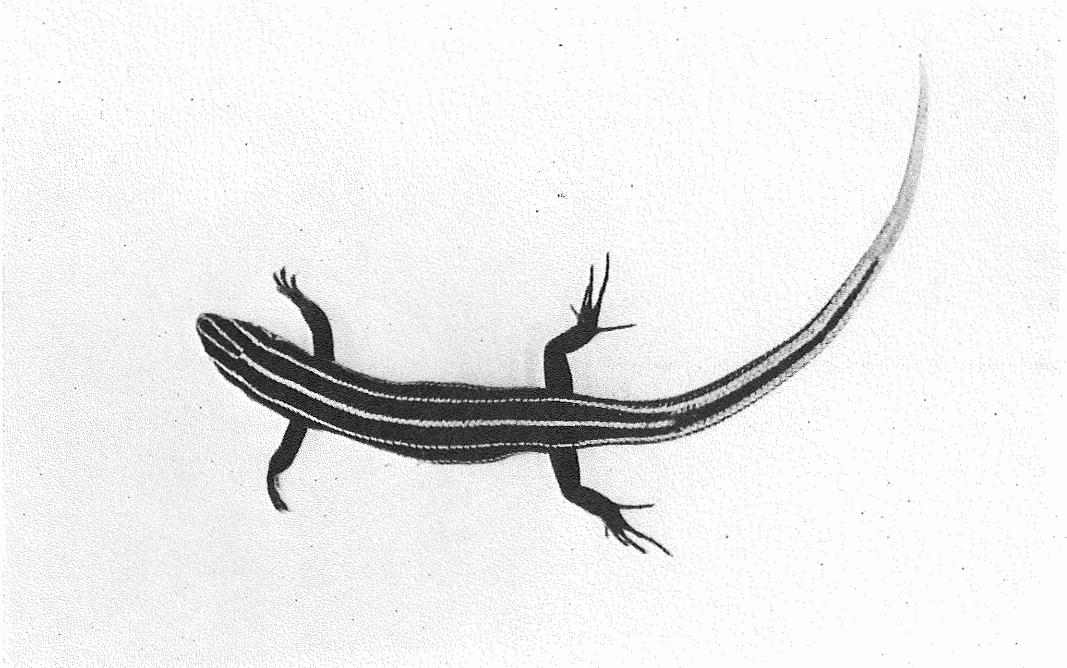


写真1 栗国島産のオキナワトカゲ

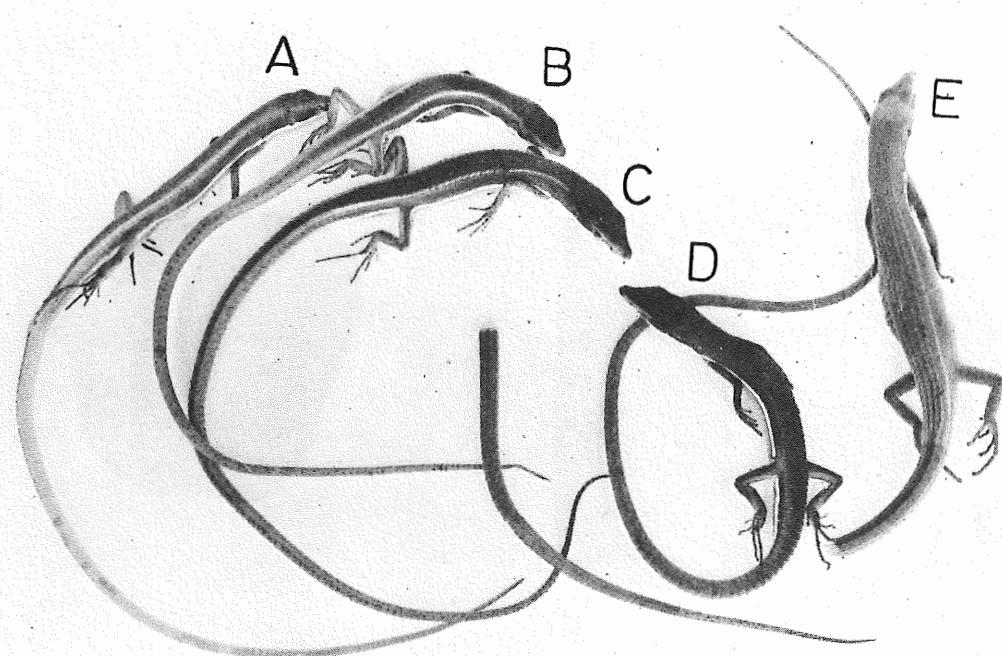


写真2 栗国島産アオカナヘビの変異